

会 議 録

会 議 の 名 称	令和 6 年度第 3 回天草市総合政策審議会
開 催 日 時	令和 7 年 1 月 22 日（水）13：30～17：00
開 催 場 所	天草市役所 2 階 庁議室
議 長 名	玉村 雅敏
出 席 者 氏 名	玉村会長、田中副会長、荒木委員、有江委員、小川委員、原田委員、松本委員、宮崎委員、山下委員
会 議 次 第	1 開 会 2 議 題 (1) 総合計画と分野別計画の整合確認について (2) 総合戦略及び人口ビジョンについて 3 閉 会
審 議 内 容	
1 開 会 （会長） 今年も始まりましたが、今年は審議会にとって節目の年です。天草市では、さまざまな自治体のやり方を参考にしつつ、全体を連動させて動かすことを意識しています。これは、似たような議論が各所で行われていても連動がわからないことがあるためです。市役所内でも仕事の違いがわかりにくく、混乱を避けるために徹底していくことが行革の大きなテーマでもあります。こうした取り組みにより、生産性が向上し、市民の暮らしやすさにも良い影響を与えていると考えています。 今年が節目の年というのは、市長選挙が 2 月にあり、その結果を踏まえて天草市は市長選挙後に総合計画を改定するスケジュールで動いています。市長選挙後には常に総合評価を検証することになっています。この委員会では、選挙のタイミングに合わせて総合計画を 3 年間で動かしてきました。今年度の会議は今日が最後ですが、来年度の会議では総合計画の基本計画の後期について検討することになります。 基本構想では、天草市の未来の姿を 8 年後、7 年後にどうするかということを進めています。そこに向けて前進しているのか、このままで目標達成できるのかを来年度に検討し、検証と改善を計画に反映していく予定です。PDCA サイクルのような取り組みを行います。例年通りの年間スケジュールを考えつつ、3、4 年のスケールで考えるのが来年のテーマです。ご協力いただくことが多いかもしれませんが、また活発な議論を行いたいと思います。 本来、この審議会は総合計画と行政経営の改革に関しても取り組んでいます。市役所内での知見の提供や確認を行い、行政経営に関する役割を担っています。タイミングが難しいですが、来年度には加速して取り組むことになると思いますので、今日は事前に必要なことを確認するタイミングとしています。来年度のテーマとして多くのことがあります。その予告をするのが最初の挨拶です。	

今日は、人口ビジョンを中心に天草市の未来を予測する議論を行います。人口の傾向や世代別のばらつきなど、ある程度予測できることを考えながら、目の前で何をすべきかを考えます。人口ビジョンを据えた議論を通じて、来年度に向けた動きにつなげていきたいと思ひます。ご協力をお願いいたします。以上です。

2 議 題

(1) 総合計画と分野別の整合確認について

(会長)

今日の議題は2つの観点に基づいていますが、他に何かあれば皆さんからご発言いただきたいと思ひます。進行の目安として、事前の告知では3時半までとなっていますが、年初の忙しい時期でもありますので、早く終わるかもしれませんし、延びた場合は3時半の時点で必要な方はご退室いただいても構いません。早めにご発言いただけると助かります。

さて、今日の議題は総合計画と分野別の整合確認についてです。天草市では、市の行政や将来的なあり方を考える上で、総合計画を中核に据えて動かしています。他の自治体でも同様の方法を取っていますが、天草市では特に丁寧に、総合計画と整合する各種計画を持つようにしています。過去に調査したところ、天草市には90近くの分野別計画があり、それぞれがバラバラになりがちでした。総合計画と年限や目標が異なることもありましたが、天草市ではこのようなことがないように、毎年総合計画と分野別計画の整合性を確認しています。

整合していない場合もありますが、それは総合計画が過去に作られたものであるためです。必要に応じて総合計画を改訂し、整合性を確保することが重要です。この審議会ではそれを当たり前に行うこととしています。そのために、年末から新年にかけて、総合計画とその年に策定された分野別計画の整合性を確認しています。整合性が取れていない場合は、総合計画の改定を行い、それに基づいて予算や活動を展開していきます。

では、これに関して事務局から補足説明をお願いいたします。

(事務局)

まず、議題1の総合計画と分野別計画の整合について説明します。ここでいう分野別計画とは、今年度策定する子ども計画のことです。結論から申しますと、整合が図られました。まずは、別紙1-1をご覧ください。これは、子ども計画を抜粋したものです。③計画の位置付け欄に記載されている図をご確認いただきながら、子ども計画の概要について説明します。政府は、令和5年4月1日、「こどもまんなか社会」の実現に向けた取り組みを推進するため、こども基本法を制定しました。こども基本法では、こども大綱を勘案して、自治体ごとの子ども計画の策定に努めるよう努力義務が課せられました。このこども大綱は、少子化対策基本法などの3つの法律に定める取り組みの推進を図るものです。次に、中央に赤枠で囲った部分で「こどもわくわく応援プラン」と記載がありますが、その左側に「子ども・子育て支援事業計画」とあります。これは、右下の緑の枠内に記載がある子ども・子育て支援法によって市町村が策定することが義務付けられている計画です。計画期間は5力年で、次期計画は令和7年から11年度までの5力年で策定する必要があります。今回策定する子ども計画は、子ども施策に関する事項を定める計画と一体の

ものとして作成できるため、本市では、子ども・子育て支援事業計画と今回策定する子ども計画を一体のものとして策定します。なお、子ども計画の策定は努力義務のため、計画期間の定めはありません。そのため、法定計画である子ども・子育て支援事業計画の計画期間に合わせて5カ年としています。ここまでの、計画策定の背景や各種計画との関係性についての説明です。次に、整合確認について説明します。子ども計画策定の際に勘案するとされていることも大綱は、すでにある3つの法律に定める大綱を一元化したものです。その取り組みは、これまで市内の各部署において実施されてきたものであるため、今回の子ども計画は、各部署で取り組んでいる子ども・子育てに関する取り組みを取りまとめたものとなっています。すなわち、これまで実施してきた取り組みを1つの計画にまとめたものが今回の子ども計画という整理になっています。

整合確認にあたっては、分野別計画との整合が図られていない場合、積極的に総合計画を改定する方針のもとで確認作業を行いました。確認作業は、子育て支援課の職員と計画書の項目を1つずつチェックし、その結果を示したものが資料1-2です。この資料1-2の説明をいたします。左側が子ども計画の項目で、真ん中の赤枠で囲った部分が総合計画の政策、施策計画の番号です。子ども計画で取り組む内容については、赤枠内で示す総合計画の政策や施策計画に書いてあります。以上が、総合計画と分野別計画の整合確認の説明です。

最後に補足しますが、現在整合が図られているのは、第3次総合計画の前期基本計画と今回策定する子ども計画です。ご承知の通り、来年度、後期基本計画を策定しますが、基本的には、今回策定する子ども計画が最新のものですので、これをもとに後期基本計画の策定を進めていきます。ただし、政府等の大きな方針転換や新市長のマニフェストの影響などにより、分野別計画の改定が必要になる場合も考えられます。その場合は、策定年度の翌年であっても分野別計画の改定を行います。このことは、今回ここに参加している子育て支援課の職員および子ども計画の策定に関わっていただいた次世代育成支援対策地域協議会、これは子育て当事者や保育、幼児教育または児童福祉分野で組織されている協議会のメンバーの方たちの間でしっかり共有されています。説明は以上です。よろしくお願いします。

(会長)

はい、説明ありがとうございました。中身について気になる方もいるかもしれませんが、まずは総合政策審議会の位置付けとして、総合計画と整合していることを確認しながら進めていくことになります。この観点について、場合によっては「どのように整合しているのですか」といったご質問があっても良いかと思います。ただし、資料はそこまで細かくありませんので、気になる観点についてはご発言いただければと思います。今ご説明いただいた内容について、補足説明が必要なことや質問があれば、皆様からご発言をお願いいたします。いかがでしょうか。はい、どうぞ。マイクをお使いください。オンライン対応でお願いします。

(副会長)

マイクを使うと音が大きくなるので控えますが、大変ご無沙汰しております。副会長を務めています、熊本大学の田中です。少し時間が空いたので確認ですが、玉村先生からの

お話にもありましたように、今年度から再び総合計画について取り組むにあたり、公民連携が重要な施策になると思います。しかし、もう一つ大事なのは庁内連携だと思います。特に、子育てが強調されている中で、教育部門も重要です。私は熊本県の高校の在り方検討会で地域を回り、教育行政と一般行政の関係について話していますが、今日、子育て支援課は来られていますが、教育委員会の方は来られていないですね。それが重要だと思っています。今回は問題ありませんが、来年度以降、子どもに関わることは子育てと教育の両面があるので、会議には教育委員会の方もオブザーバーとして参加する必要があると思います。ご検討いただければと思います。以上、コメントです。

（会長）

はい、ありがとうございます。後期計画の策定において、非常に重要なヒントをいただきました。今日の資料 1-2 でも関連部署が示されていますし、総合計画において主たる担当部署を設定しつつ、他の関連部署とも連携を図る努力をしているはずです。しかし、担当部署だけが進める形になると、他部署が関与しにくく、結果的に庁内での協働が進まないことがあります。

以前の総合計画での専門部会のように、各部署が責任を持ちながらも、総合的に連動する体制を意識的に作る必要があります。庁内での打ち合わせがオンラインやメールで済まされてしまうと、協議が不十分になることもありますので、後期計画ではより連動する体制を意識していただきたいと思います。

この議論は後期のあり方や策定の方法に関する重要なポイントですので、庁内での検討体制をより総合的に動かせるよう、ご検討をお願いします。現在の総合計画では関連部署が示されていますが、実際に一緒に動いているかどうかが見えにくい状況です。以前の専門部会では協議を行い、責任を持って審議会に参加していましたが、現在は部長や課長だけが説明する形になりがちです。この点についても、次回に向けてご検討いただければと思います。

事務局からも、今の問題意識を共有し、次の策定に向けた議論を進めていただければと思います。

（事務局）

今のご指摘について、まさにおっしゃる通りだと思います。子ども計画に関しては、今日は子育て支援課が来ていますが、関連部署とも数回会議を開いています。これまでは担当課に資料を振って集める作業が多かったですが、関連する部門の意見を踏まえて進める必要があると考えています。ただ、ご指摘の通り、教育委員会は本日は来ておりません。こちらについては、担当者が帰ってから指摘を共有し、対応していきたいと思います。ご指摘ありがとうございます。

（副会長）

後の議論とも関連すると思いますが、支所の皆さんも重要だと思います。こちらは連携できますが、支所が置いてけぼりになることがあり、高校のあり方検討会のような場合、特定の支所だけの話になりがちで、周辺から通学している高校生に情報が伝わらないことがあります。本庁の皆さんは部署連携をされていると思いますが、支所もお忘れなくとい

うことをコメントさせていただきます。

（事務局）

おっしゃる通り、高校については私たちも教育委員会と連携して取り組んでおります。該当する支所が中心になっている状況です。ただ、会議の中で先生がおっしゃったように、牛深高校が河浦までを考えていたのが、実際には天草町や天草中学校区域まで広がっているという意見も聞いております。本渡なども含めて検討が必要だと考えています。支所を巻き込む点についても、私たちとして考えていきたいと思います。

（副会長）

ありがとうございます。

（会長）

他にご意見はありますか。よろしいですか。私からも確認させていただきます。先ほど事務局から説明があった通り、来年度には総合計画の後期計画を策定します。これは前期期間を振り返り、様々な検証を行った上での計画策定ですので、今まで通りにはいかないはずです。もし全て順調であれば、それも良いのですが、基本的には改善や新たな挑戦が必要だと思います。資料 1-1 を見ていると、状況の変化があれば見直しをするとありますが、総合計画の後期計画が策定されることが決まっているので、それに合わせて見直しをすることを明言した方が良いと思います。

総合計画の前期を検証することが曖昧に見えることがありますが、これは子ども計画に限らず全ての計画において求められることです。総合計画が改定されたら、それぞれの計画がそのまま良いのか確認する必要があります。天草市では総合計画の後期計画を来年度に作成することが決まっているので、それに応じて見直しや改定を明確に書くべきです。そうしないと、現在の総合計画と整合していることが、次のものとは整合しない可能性が高くなります。その観点で検討していただきたいです。

このページが見やすかったのでここで述べましたが、他の部分でも構いません。後期計画に対応して見直し、検証することを明示していただければと思います。資料 1-1 の「必要性が生じないとやらない」と書かれている部分についても、必要性が見えているなら書いておくべきです。天草市は総合計画を最重要視しているので、改定に合わせて見直し、検証することが会議の前提だと思いますが、そのあたりいかがでしょうか。

（事務局）

この部分につきましては、子ども計画の中で表現していく形になりますが、会長がおっしゃった点については、確かにそうだと思います。この書きぶりについては、再度検討させていただきます。

（会長）

はい、お願いします。総合計画の話で議論になっていますが、あらゆる分野別計画に同じような表現をしていただくべきです。整合を確保するために、担当課に任せるだけでなく、企画の部署でご検討いただき、この表現を加えるべきですということをご調整いただ

ければと思います。何かございますか。よろしいですか。では、この議題は以上とさせていただきます。

(2) 総合戦略及び人口ビジョンについて

(会長)

では、続きまして議題の2、「総合戦略及び人口ビジョンについて」に入ります。こちらに関しまして、事務局からご説明をお願いいたします。

(事務局)

まず、前回の11月21日に開催された第2回総合政策審議会において、人口ビジョンをお示しました。委員の皆様には意見をいただき、大変お世話になりました。ありがとうございました。人口ビジョンだけでなく、本市の総合戦略については、令和2年度から6年度までの5年間を期間としてスタートし、今年度が最終年度となっております。今後の戦略策定の方針として、現在の総合戦略を1年間延長し、次の後期基本計画と一体的に運用することを決定し、作業を進めているところです。

また、総合戦略の基礎資料となる人口ビジョンについても、本年度、最新のデータで改定を行い、後期基本計画の基礎資料として活用したいと考えています。現在、人口ビジョンの改定作業を進めており、前回の審議会での意見を受けて、データの追加を行っています。今回はその内容を中心にご説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、資料2の1「審議のポイント」をご覧ください。詳細な説明は後ほど行いますが、今回の説明の流れとしては、意見紹介の結果および人口ビジョンの追加内容の説明、作成状況の説明を行った後に、総合戦略への追加記載分の作成状況や今後のスケジュールについてご説明いたします。

次に、資料2の2をご覧ください。前回の審議会では意見紹介を行い、委員の皆様からの意見をまとめた一覧表です。総合戦略の改定方針についてはご意見はありませんでした。また、人口ビジョンの改定内容については、2名の委員からデータの追加が必要とのご意見をいただきました。具体的には、産業別、業種別の就業人口の推移、賃金推移のデータ、そして市町村民所得の推移をデータとして追加してはどうかという意見がありました。

また、高校生アンケートに関しては、2名の委員から実施頻度やアンケート内容に関するご提案をいただきました。高校生アンケートの実施については、実施時期等を今後検討課題とし、総合計画の策定期間を考慮しながら具体的な実施の時期と頻度を決めていきたいと考えています。内容についても、いただいたご意見を参考に検討を進めていきます。

その他のご質問として、年齢階級別の人口移動についてですが、資料2の3に人口ビジョンがあります。その14ページと15ページに人口移動のデータがございます。内容としては、15歳から24歳の大幅な転出の数字は住民票を提出した数でしょうか、住民票が天草にありながら現住所が天草にいる人も含まれた数でしょうか、というご質問がありました。この年齢階級別の人口については、国勢調査の結果をグラフ化しているものになります。

国勢調査については、住民票の届け出場所に関係なく、10月1日現在、普段住んでいる場所で調査票に記入します。したがって、住民票が天草市にあっても、普段天草市外で生活している人は、現在の生活の拠点となる地域で回答しています。人口移動の人数の集

計は、5年前と現在の状況からカウントした数となります。大きなマイナス部分は、5年前は天草市に住んでいたけれども、現在は天草市外に生活拠点を移した人と理解できます。結論として、住民票の移動の数とは必ずしも一致しないということになりますので、ここはご回答させていただきます。

意見紹介の結果については以上です。続いて、人口ビジョンに追加したデータについてご説明いたします。まず、産業別就業人口と業種別就業人口についてですが、人口ビジョンの18ページから23ページを追加しました。18ページには、就業者総数の推移および一次産業から三次産業の就業人口の推移をグラフ化しています。こちらも国勢調査の結果からグラフを作成しています。ご覧の通り、就業者総数は減少しており、現時点では先止まりの兆しが見受けられません。また、特に一次産業と二次産業の就業者数の減少が目立っています。三次産業の就業者については、1980年から2000年までは増加していましたが、2000年を境に減少に転じています。

続いて、19ページから23ページは一次産業から三次産業の業種別の就業者の推移を追加しています。19ページは、一次産業の業種別就業者数の推移です。ご覧の通り、1980年から一次産業の農業、漁業、林業の就業者は減少の一途をたどっています。2020年の国勢調査の結果と比較すると、林業を除くすべての業種で約70パーセント強の減少となっています。

次に、20ページをご覧ください。20ページは二次産業の業種別の就業者数の推移です。二次産業も1990年までは総数が増加していましたが、1990年以降は減少を続けています。ただし、2010年から2015年にかけては、それ以前ほどの減少幅ではなく、ほぼ人数を維持している状況で、2020年の国勢調査の結果においては、建設業と製造業ともに減少しています。

次に、21ページから23ページについてですが、こちらは三次産業の業種別の就業者数の推移です。三次産業は業種が多いため、3ページに分けて掲載しています。また、各年の国勢調査時において調査項目が細分化されていますので見にくいですが、その結果をグラフ化しています。

3次産業の就業者総数は、1980年から2000年までは増加傾向にありましたが、2000年以降は減少しています。業種別に見ると、卸売・小売業の就業者は年々減少しています。2005年から調査項目が細分化され、サービス業から医療・福祉などに分かれました。医療・福祉の就業者は2015年まで増加していましたが、2020年の国勢調査では若干減少しています。

市町村民所得等についてのデータは、人口ビジョンの36ページから46ページに追加しています。36ページから38ページは天草市の市内総生産（GDP）に関するデータで、39ページから40ページは市町村民所得に関するデータです。これらは熊本県がまとめている市町村民経済計算からの数字を使ってグラフ化しています。41ページから46ページには、納税義務者に関するデータを追加しました。

まず36ページをご覧ください。天草市内の市内総生産のデータですが、市町村民経済計算のデータとなります。本市の総人口は青線で、年々減少していますが、本市のGDPは2011年から2021年までの10年間で、年間約2000億から2200億円台で推移しています。現状では人口減少と連動してGDPが減少する状況ではないと考えられます。参考までに、合志市のデータも比較のために載せています。合志市では、TSMCや半導体関連企

業の集積が進み、近年大幅に GDP が増加しています。2020 年から 2021 年にかけて 1 年間で GDP が約 600 億円増加しています。人口も年々約 800 人程度増加しています。

次に 37 ページですが、市内総生産の産業別の推移を載せています。第 1 次産業、第 2 次産業、第 3 次産業で若干の増減はありますが、全体的な減少傾向にはなっていません。

38 ページは、市内総生産の県内順位と経済成長率のグラフです。2020 年に新型コロナウイルス感染症などの影響により、経済活動が低迷したことにより、一旦減少し、近年では持ち直しの傾向が見られます。

39 ページから市町村民所得のグラフを載せています。市の過去 10 年間の市町村民所得は、人口減少と連動せず、2019 年まで上昇しています。

本市と同規模の GDP を持つ宇城市や菊池市との差が広がっており、県平均にも届いていない状況です。市町村民所得に関しては、各地域の産業構造が異なるため、一概に比較はできませんが、本市は県下 14 市で最下位となっています。改善が難しい状況です。市町村民所得には企業所得も含まれるため、個人の給与が上昇したことを示すものではないことを確認しておきます。

次に、40 ページについてですが、市町村民所得の県内順位と対前年上昇率のデータです。こちらをご確認いただければと思いますが、本市の所得順位は 30 位前後を推移しています。また、賃金推移についてのご意見もいただいていたました。市町村民所得では賃金の推移を把握するのが難しかったため、今回、納税義務者数の推移を追加しました。

41 ページですが、これは納税義務者全所得者合計のデータです。納税義務者は何らかの収入があり税が発生している人を指し、市民税を含むすべての所得が課税対象となる方の数字です。この納税義務者の人数推移を示しました。人口減少に伴い納税義務者も減っていると予測しましたが、実際にはほぼ減少していません。2015 年からのデータでは、2023 年に約 1000 人減少している状況です。

総所得の金額は青の棒グラフで示していますが、総所得も増加しています。個々の所得が上がったわけではありませんが、全体として所得が上がっている状況です。天草市内の納税義務者としては、所得が上がっていると感じています。

次に、42 ページですが、こちらは全所得者の 1 人当たりの総所得の金額を示しています。この数字も年々増加しています。次に、43 ページでは納税義務者の男女年代別の人数の推移を示しています。2023 年のデータでは、5 歳から 64 歳の生産年齢人口と 65 歳以上の老年人口に分けて数字を抽出しています。0 から 14 歳の納税義務者は天草市では存在しないため、データには含まれていません。

生産年齢人口については、2015 年から 2023 年の間に男性が 2000 人、女性が 1000 人ほど減少しています。一方、65 歳以上の老年人口の納税義務者数は男女ともに 1000 人程度増加しています。全所得者で見ると、現役世代の減少分を 65 歳以上の方がカバーしている状況です。

次に、給与所得者の納税義務者数を見てみました。就業者総数が減少しているため、給与所得者も減少していると予想しましたが、実際には 2015 年と比べて 300 人弱増加しています。給与所得者の総所得金額も年々増加しています。市内企業の業績が回復し、物価上昇に応じた賃金の上昇が影響していると考えられます。また、扶養を外れた人が増えたことも所得増加の一因かもしれません。

若い人たちの人口移動も問題意識として持っています。就職によって天草市外に出る人

もいると考えています。45 ページでは、給与所得者の 1 人当たりの所得金額が上昇している状況を示しています。次に 46 ページですが、全所得者と同様に年代別の人数推移を示しています。15 歳から 64 歳の男性は 2015 年と比較して 1000 人ほど減少し、女性は 300 人程度減少しています。

65 歳以上の男性と女性について、2023 年には 1630 人が給与所得の納税義務者となっています。2015 年と比較すると、男性はほぼ倍増し、女性は 532 人から 1292 人と約 2.5 倍になっています。これから言えるのは、働くシニア世代が増えているということです。労働力不足が指摘されているため、今後も増加するのではないかと考えています。

GDP や市町村民所得、納税義務者の推移を賃金の参考にするためにデータを載せました。当初は人口減少とともに GDP や納税義務者の数も減少すると想定していましたが、現状はそうではありません。ただし、今後は減少する可能性が高いと予測しています。現状の要因としては、国の経済対策、市の企業誘致、事業所の業績向上、労働生産性の向上、高付加価値化などが考えられますが、具体的な原因はまだつかめていません。

全庁的に要因分析を進めており、その意見を参考に人口ビジョンを作成していきたいと考えています。テーマは若年層をどう残すか、帰ってくる環境をどう作るかです。データの補足が不足していると感じており、素案を出そうと思っています。各委員の皆さんからの意見をいただければと思います。説明は以上です。ご意見やご質問があれば、お気軽にお聞かせください。以上です。

(会長)

説明ありがとうございました。忌憚なく意見を述べましょう。アンケートにご協力いただき、ありがとうございます。資料 2-2 にある通り、皆さんからいくつかの観点をいただきました。アンケートに回答していない方も、こういったことがありますよねという意見を求めたいと思います。

今の説明の中で、皆さんがアンケートを書いた時のことを補足していただく発言があるかと思います。その前に、私から少し補足をします。まず、総合戦略という言葉について整理します。言葉が分かりにくいですが、総合計画や総合戦略という言い方があります。この総合戦略は、2015 年に国が法律を設定し、石破さんが地方創生大臣の時に地方創生という言葉掲げました。消滅可能性都市というキーワードが出てきた中で、持続可能性のない地域が多くなることを懸念し、創造的な方法で地域を活性化しようという考え方です。

各自治体には「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、総合戦略を策定する努力義務があります。地方分権の流れから、国が一律にやれとは言いませんが、各自治体がそれぞれ考え、国や県の方針と連動しながら進めることが提唱されています。挑戦する自治体には財源的な支援もあります。総合戦略に基づいた推進交付金などがあり、デジタル田園都市などの名前で支援が行われています。

この改定は 2015 年にスタートし、5 年ごとに見直されています。2 回目の改定時期が来たので、未来を予測しながら考える必要があります。人口減少への対応が日本の大きなテーマであり、2008 年をピークに人口が減少し、高齢化や子どもの数の減少が進んでいます。人口ビジョンは、人口総数を掲げる目標ではなく、人口を丁寧に分析する取り組みです。

今回、国勢調査のデータを活かし、5年ぶりに人口ビジョンを考えるタイミングです。もっと細かく見ていくことも可能ですが、人口をどう読み取るかが1つの観点です。また、天草市は総合計画で動くことを意識しています。

先ほどの子ども計画も総合計画と整合しているので、総合計画を見れば子ども計画がどうなっているかも確認できます。総合計画全体として整合化していくわけですから、いろんな施策が連動するかどうかを考えながら進めていくことになります。総合戦略という形で、今までの延長線だけでやらないから「戦略」という言葉を使ったのかもしれませんが。言葉としてはカッコいいですが、実質的には一つの分野別計画です。人口に関することを考えた計画として、総合戦略という名前の計画を作っています。

「まち・ひと・しごと創生」ということにもなりますが、総合計画の各所にその分野別計画として埋め込まれたほうが天草市としては意味があります。今年改定して、それを生かして総合計画を作ることもできましたが、来年度に総合計画の後期計画を策定するタイミングですので、その時に総合戦略の議論も一緒に進めていこうということになっています。

背景が長くて申し訳ありませんが、そういうことを考えて、総合計画を検討するときに、今の人口のことを色々読み解いておくとうまいだろうということで、資料提供や審議会の時間を使ってきました。さらに、人口ビジョンとしては、今年はある程度整理していくことで、来年度の総合計画を検討するときに、例えば子どもに関する部署や経済に関わる部署がもっと考えやすくなるだろうということがあります。

総合戦略自身は実は今年度いっぱいということだったので、1年間延長しようという話が後で出ると思います。そうした上で、来年度の総合計画の検討時に、人口ビジョンとしてはこういう状況だからこの後は意識した方がよいということを議論しやすくしようとしています。

まだまだ自由に議論できますし、伸びやかに議論した方がよいですが、資料2-2にあるような意見を出しつつ、人口ビジョンを見た方がよいのではないかとということも、ぜひ皆さんで意見交換しておきながらデータを揃えていただき、いろんな部署が総合計画を検討するときに、人口減少社会や地域での活躍を考え、人が住みたくなる、定住したくなることを示せるようなデータや考え方を人口ビジョンで検討しておくとうまいと思います。

背景が長くなりましたが、そのようなことがあります。さて、どうしましょうか。皆さんが気になっていることや発言を補足いただくことがあればお願いします。皆さん、大丈夫でしょうか。探索的に発言いただくとよいと思います。では、何か皆さん、なんでもよいのですが。どうぞ。

(委員)

しっかりと資料を作成していただき、ありがとうございます。私の方から意見書を出した件がありますが、所得について資料をお願いしました。このように所得に関するデータを揃えていただきましたが、天草市の所得は14市町村の中で最も低い状況です。給与も平均すると低いです。そうすると、天草市に住みたい、就職したいという人も、所得が低ければ他の地域に出て行くのは当然ですね。熊本市内など、所得が高いところに行きましょう。その差が少しでも縮まれば、流出は少なくなると思います。また、Uターンして戻ってくる人や学生さんたちも帰ってきて就職するのではないかと思います。ですので、

私はこの点が非常に重要だと考え、所得を示してくださいとお願いしました。

このグラフでは、41 ページに納税義務者の総所得金額が書かれていますが、棒グラフでは大きく上がっているように見えます。しかし実際には 1 割、いや 5%程度しか上がっていません。企業所得についても同様で、45 ページの納税者 1 人あたりの所得金額を見ていただくと、2015 年から緩やかに上がっていることがわかります。ただ、他の地区や市町村と比較すると、もっと上がっているのが現実です。最低賃金を上げましょうという動きもありますが、それだけで上がっているわけです。県下でも最低でも中間くらいの水準に持っていけば、流出は少なくなるのではないかと、みんな帰ってくるのではないかと思います、この資料をお願いしました。

もう 1 つ、この状況を改善するためにはどうすれば良いかということです。先ほど企業誘致の話がありましたが、そういったことを進めないと所得は上がりませんし、働く場もあります。前回の会議でも言いましたが、10 年、15 年働いた人が、天草は所得が低いから出て行かなくちゃいけないと言って去っていく方も多いです。それを止めたいという思いもあり、流出を少なくすることで、人口減少も緩やかになるかもしれません。こうした点をビジョンの中で考えていく必要があると提案しました。理解していただけましたでしょうか。すみません。

(会長)

ありがとうございます。委員さんのご指摘には共感するところがあります。今のような所得に関わる問題は、数字で見やすいですが、その背景や影響についても考える必要があります。単に人の数を増やすためにどこから無理やり連れてくるわけではありませんので、難しい問題です。所得があれば良いという考え方もありますが、それだけではなく、もっと深く掘り下げる必要があります。所得を得るためには、仕事が必要ですし、所得の見え方についても考えなければなりません。例えば、特定のタイプの方の所得がこの地域では得られないため、そのタイプの人たちが住めなくなり、全体として所得が低く見えるということもあるでしょう。多様な議論がまだまだ必要だと思います。

皆さんは様々な経験をお持ちですので、委員さんのご意見に対して、何か新たな観点や影響についての意見をいただければと思います。そうした議論が、この島や地域に住みたいと思える要素を見つけ出し、結果として住む人を増やす方向に向かうのではないのでしょうか。皆さんが気になったことやご意見をぜひお聞かせください。

(委員)

委員さんのお話はもっともだと思いましたが、私は少し違う視点で考えています。人口が減っているのに GDP が横ばいであることに驚きました。この要因を今後探るというお話でしたが、しっかりと検証していただきたいと思います。

また、24 ページの年齢別階級のデータを見て感じたことがあります。特に高齢者の女性が医療福祉系の仕事で大きく伸びていることに注目しました。5 ページの人口減少の推移表では、男女差があり、今後女性の方が男性よりも減少するという予想があります。女性の高齢者が医療や福祉で頑張っている現状が、今後減少すると市の財政にも影響が出ると思います。もし女性が頑張っているのであれば、それにスポットを当てた事業を推進することで、財政基盤が底辺から上がるのではないかと感じました。以上です。

(会長)

次、どうぞ。

(委員)

ご説明ありがとうございます。データの見え方が変わり、取り組みに活用できそうな内容になっていると感じました。所得を上げることは、委員さんがおっしゃったように、天草市で働きたい人を増やすために重要だと思います。しかし、人口が減る中で所得を上げる取り組みは難しいとも感じています。所得を上げるためには、天草市内の人たちに向けたサービスではない業種を誘致する必要があると思います。これにより、平均所得を上げるための企業を絞って誘致する指標として使えるのではないかと思います。

また、総人口は減っているものの、給与所得で仕事をしている方の人数が300人ほど増えているのはすごいことだと思います。これも1つの指標にできると思います。長く働ける施策を行うことで、天草市内の労働人口をキープしたり、緩やかに減少させたりすることができると思います。この指標をもとに、医療、介護、福祉分野での労働人口を増やすための施策を考えることができると思います。このデータは様々な取り組みに繋がる可能性を感じました。感想が多くなりましたが、ありがとうございます。

(会長)

はい、ありがとうございました。ということで、委員さんから順番でしたけれども、補足いただいたところと、さらに観点を確認して、GDPの話とか、ないしは福祉と、さらにお話がありましたけれども、今のお三方の話からちょっと実はこの辺が気になっているとか、もう少し実はその辺のことを考えたりとか、答えを説明するというのではなくて、今日の会議の意図は、多分悩まれていることを一緒に考えようということでもありますので、今聞いていて思ったこととかを皆さんからお話いただくといいかなと思いますし、どうしようかなと正直思っているんですよ、でもいいし。こういうのってやりだしたらいくらでもデータを作れてしまうので。性格的にも作れるので。ここぐらいまででいいんですよとかということを逆に言ってあげたらいいと思うんですよ。なので、ちょっとそういった辺りで、今みなさんから聞いてどう思いましたかというところで、ご発言いただけますか。

(事務局)

私もデータを作成しながら、説明でお話しした通り、現行の人口ビジョンでは、人口が減少するとGDPも減少するという想定をしています。これは当然の流れだと思いながら作成しました。委員さんからもご指摘があった通り、実際に所得、特に給与が原因で転職する人が天草市内にどのくらいいるかという具体的な数字は、私自身は持っていません。担当課が持っているかもしれないので、庁内で照会をかけているところです。

今回は経営者の方もいらっしゃいますので、実際にご自身の職場で就業者数が減っているか、あるいは増えているか、また、増やすためにどのような取り組みをしているかなど、ご経験をお聞かせいただければ、何かヒントが得られるのではないかと考えています。

(会長)

はい、悩みどころですね。しかし、逆にそのヒントを得るためにも、皆さんがそれぞれ様々な活動や事業をされている中で、何かしらの兆しや挑戦があるかもしれません。ご自身の経験でも良いですし、天草市内に実はこういった兆しがありますよ、といった情報からヒントが得られるかもしれません。人口ビジョンとして示すことがまだ決めかねている部分もあるので、様々な観点からの意見が欲しいと思っています。

では、順番でいきましょう。どうぞ。

(委員)

私も質問を通じていただいた資料が非常に充実していて、興味深いデータがたくさんあることに感謝しています。私の仕事柄、様々な事業所と関わる中で感じていることがあります。44 ページの納税義務者の所得が 2015 年から 2023 年にかけて順調に上がっているという点です。2015 年当時、天草や熊本県の最低賃金は約 600 円でしたが、2023 年には 900 円に近づいています。ここには 300 円の差がありますが、これはどれほどの影響を及ぼしているのか、正直私にはわかりません。

実感としては、最低賃金を少しクリアする程度に移行している事業所が多いように思います。飛び抜けて高い賃金を設定しようという事業所は少ないです。そのため、最低賃金の上昇に伴って所得が上がっているように見えます。企業が給与を払えないからといって、従業員が減ったという印象はありません。実際には、企業はまだ給与を払えるのではないかと内心思うことがあります。

給与を少しずつ上げていく仕組みを作る方法がないかと考えています。また、45 ページにある所得金額の単位ですが、280 万円台の所得が低いのではないかと感じています。他県と比べた場合、移住やリターンを考える人々にとってこの所得がどれほどの差を生むのか、指標になるかもしれません。以上です。

(会長)

委員さんのお話を伺い、さすがだなと感心しています。皆さんのご意見を聞いて、私自身もいろいろと考えさせられました。さて、次に事務局へお伺いしたいと思います。今の話を聞いて、確かにそうだと思う点や、注目したいと思う点があれば教えてください。また、追加で質問したいことがあれば、ぜひお聞かせください。いかがでしょうか。

(事務局)

私もこの所得に関するデータを作成する際に、県内での位置を調べようと思いましたが、このデータの元は税のデータです。市町村民所得のデータであれば県内のデータが出ますが、それだと企業の有無で大きく変わってしまいます。ご覧いただいた通りです。そのため、1 人当たりの給与としてはなかなか参考になりません。

天草市の 1 人当たりの所得水準が県内でどの程度なのかを把握するには、おそらく県内各市の税のデータをすべて集めないと難しいのではないかと思います。どうしたものかと考えたところです。ただ、仮に比較するとしたら、国平均のデータなどがあれば、それと比較して天草市の 281 万 8000 円という数字がどの位置にあるのかを把握できるのではないかと考えました。国平均や県平均のデータを探してみても、もし見つければそれを載

せたいと思っています。

（会長）

皆さんが悩まれている点に関して、今のデータをもっと精査し、原因を考えることが重要です。天草市の所得が増えていることについて、実は最低賃金と連動している可能性があります。また、コロナ禍での給付金が家計に流れたことで、政府の予算が移転し、所得として反映されたのかもしれませんが。最低賃金や公的な補助制度が影響している可能性が高いと考えられます。

この状況を事業者の皆さんにお伝えし、県内での水準が低いことを示すことが重要です。データを用いて、天草市が県内で低い位置にあることを説明し、それが定住やＵターン、人口確保の課題に影響していることを理解してもらう必要があります。個々の企業が人件費を上げることは難しいかもしれませんが、全体としての取り組みが重要です。

天草へのＵターンや移住を促進するため、地域の持続可能性や雇用確保、生涯活躍のしやすさを理解し、取り組んでいくことが必要です。このような分析とデータを用意し、議論を来年度に引き継ぐことができれば良いと思います。私が少し話を加えてしまいましたが、以上です。どうぞお願いします。

（副会長）

８割がたはこの意見で問題ないと思いますが、私の考えは残りの２割にあります。他と比べ始めると悩んでしまいますが、価値を生み出す産業を作らないと難しいと感じています。移住において、お金は大事ですがそれだけではないという考えを皆さん持っていると思います。

例えば、今の学生はパートナーをマッチングアプリで見つけることが多いですが、昔はお見合いで結婚していました。これと同じように、比べ始めるときりがなく、自分の価値観をしっかりと持つことが重要です。天草にしかないものを作り出すことが大切で、最終的には誇りが持てるかどうかに行き着くと思います。

文化教育やウェルビーイングといった考え方を取り入れる産業が必要です。観光産業もランキングに頼るのではなく、天草にしかないものを生み出すことが重要です。人材育成に注力し、教育に力を入れることが求められます。

行政だけでなく、民間と協力して研究所を作るなどの取り組みが必要です。人口ビジョンは科学的な予測だけでなく、目標に向かって努力するためのものです。行政だけでなく、タスクフォースを作り、次の総合計画に向けて取り組むことが必要だと思います。以上です。

（会長）

おっしゃる通り、戦略を立てる際には、オーソドックスな方法で確実に進めることも重要ですが、それだけではなく、独自の価値基準を持つことが大切です。経済成長という共通の目標に引っ張られがちですが、他と争うのではなく、自分たちの価値をしっかりと持つことが重要です。

特に人の流れに関しては、その人が「ここに住みたい」と思えるような価値を提供することが求められます。そのためには、総論だけでなく、さまざまな切り口で議論を進め、

具体的な目標を設定することが大切です。

人口問題は多くの要素が絡むため、複雑で悩ましいですが、多様な視点からの議論を通じて、実現可能な目標を確認していくことが重要です。感想を共有していただき、ありがとうございます。他に何かご意見やご質問があれば、ぜひお聞かせください。

（副会長）

東川町の「写真の町」のように、特別な理由がなくても決めてやるという姿勢は重要ですね。天草には世界遺産や美味しい魚など、他にはない魅力があります。行政の主な役割は数字の戦いをしっかりと行うことですが、1割程度の遊び心や独自のポジショニングも持つことが大切だと思います。

これは難しい課題かもしれませんが、新しい視点やアプローチを持つことは、地域の魅力を引き出し、発展させるために有益だと思います。ぜひ検討していただければと思います。

（会長）

次の方、どうぞ。

（委員）

ありがとうございます。たくさんの意見が出て、今回この数字のグラフをまとめてもらったことには大きな意味があったと思います。副会長がおっしゃったように、今いる天草の企業の所得をすぐに上げるのは難しいかもしれません。しかし、外から人を呼び込むことは非常に重要です。

企業誘致についても、現在 29 社の企業が天草に来ていただいています。交通の便が悪く、優秀な人材が豊富にいるわけではないにもかかわらず、天草を選んで来てくれているのは、天草にしかない魅力があるからです。そのため、天草にしかない価値観を広げることが大切です。

また、地方と東京の格差をなくし、東京の仕事を天草で行えるような環境を整備することも一つの方法です。天草にしかないもの、天草でしかできない魅力を発信し、東京の人が天草で働ける環境が整備できれば、所得も上がるのではないかと思います。それも一つの可能性として考えています。以上です。

（会長）

ありがとうございます。29 社も来ていただいているのは素晴らしいことだと思います。リターンや定住されている方々も含めて、非常に感謝しています。私の活動拠点の一つである北海道東川町では、「東川スタイル」に書かれているように、独特な取り組みが多く見られます。例えば、「写真の町」として知られていますが、実際に写真の工場があるわけではありません。それでも、地域の特色として確立しています。子育て中の方が職場に子どもを連れてくるのが当たり前になっているなど、地域の独自性が日本の未来につながると感じています。

29 社の皆さんは、天草の価値を見出して来ていただいていると思います。天草にしか

ない価値があることは、言語化が難しいかもしれませんが、多くの方が共感しているはず
です。移住された方や事業者の皆さんも、天草の魅力を感じていると思います。これをも
っと加速させるために、総合計画などで既に起こっている未来を意識的に探ることが重要
です。

29 社という数字は、この規模の人口の地域では非常に大きな成果です。アンケートや
対話を通じて、どのような価値があるのかを探り、移住や企業誘致に役立てることができ
ると思います。東京の企業が天草での仕事を選ぶ理由も、感性や暮らしやすさがあるから
です。子育て環境も含め、天草の魅力を考えることで、さらなる可能性が見えてくると思
います。

29 社がどれだけの人を雇用しているか、どの世代が移住してきているかなどのデータ
も興味深いです。これを深掘りすることで、さらに多くの可能性が見えてくると思います。
いろいろな可能性があると感じています。以上です。

(委員)

今の 29 社がどの程度天草の元々の会社とタイアップしているのか、その割合がわかる
と良いと思いました。最近、市長選前ということもあり、地元の会社をもっと利用してほ
しいという声をよく聞きます。新しい企業が入ってくるのは良いことですが、地元企業と
どのように関わっているのかが見えると、地元の方々も歓迎する企業が増えるのではない
かと思います。よろしくお願いします。

(会長)

はい、ありがとうございます。まさにその通りです。最初に天草に来た時はイメージだ
けかもしれませんが、実際に天草で活動するには、地元の皆さんと影響し合うことが価値
を生みます。今できていなくても、今後やりましょうということなので、もっと加速する
必要がありますね。データを示すことで、天草が多様なコラボレーションの場であり、既
存の事業所にもメリットがあることを伝えられます。これは、ここで事業を展開しようと
する動機になります。人口ビジョンに収まらなくても良い話で、来年に向けて考えるべき
こととしてメモを取っておいてください。ぜひ考えていただけると良いと思います。何か
他にございますか。すいません、お待たせしました。

(委員)

最近、人口ビジョンとは少しずれるかもしれませんが、牛深などでは外国人が非常に多
くなっていると感じます。労働力の確保という点では、一次産業がかなり減少しているた
め、外国人労働者の確保が重要になってきます。これは日本国内でも競争が激化すると思
います。行政の支援や、個人企業が派遣会社と連携している例も多くあります。我々金融
機関も、そういったサービスを提供できるようにしていく必要があると認識しています。
こうした点も考慮に入れていただければと思います。

(会長)

グローバル化が進むと、人の移動が容易になり、地域にさまざまな人が来て活躍する機
会が増えます。天草市の人口の中で外国人の数を想像だけで見てしまうのは注意が必要で

す。外国人が旅行で来るのはもちろんですが、国勢調査でも住民として回答していただくことになります。外国人がどのようなビザで入国しているのか、滞在資格はどうなっているのかを見ていくことで、天草市の多様性が加速していることがわかります。これは地域基盤として様々なタイプの方々が暮らしていることを示しています。

労働力として外国人を考えると、ビジネスチャンスを増やすことにもつながります。外国人を多様な視点で見ることが重要です。技能実習生や特定技能、創業ビザなど、さまざまな形で外国人が増えてきています。日本らしさを失わないようにしつつ、外国人をどのように見ていくかを考える必要があります。

今回の資料には含まれていませんが、天草市として外国人をどのように位置づけるかを考える時期に来ていると思います。私が個人的に興味深いと思ったことを話していますが、皆さんからも気になったことがあればご発言いただきたいです。事務局も説明する立場になりがちですが、市の職員も様々な課を経験しているので、意見を出していただくと良いと思います。何かございますか。

（事務局）

今回の審議会で所得の推移についての分析が一番悩ましい部分でした。議会などで税収が上がっていることは知っていましたが、その要因を深く分析していないことに反省しています。庁内では部長級の担当者が毎日遅くまで分析に取り組んでおり、直上司からは分析が甘いとの指摘も受けています。専門的な視点で見てもらうことが重要だと感じており、今回の意見を参考にさせていただきたいと思います。私の感想ですみません。

（会長）

税収は結果的に得るもので、市役所の構造的な課題として、予算を先に作り、後で税収で補うという考え方があります。このため、企業とは異なり、どのようにお金を得ているかが見えにくくなり、税収に関する意識が乏しくなります。天草市としてどのように税収を得てきたのかを考えることが重要です。税収は地域の基盤を作るために必要な要素であり、人の状況によって変わることもあります。委員さんがおっしゃる通り、財源をどう見ていくか、財政にどう影響するかを考えることが大切です。来年度は行政改革の話もあり、財源確保や税収の影響を人口と関連付けて考える必要があります。ありがとうございます。

（事務局）

人口ビジョンだけでなく、総合計画にもつながるお話をいただき、感謝しています。元々、所得が低いのでこれを上げる必要があるというのは当然のことです。田中先生からの労働力や価値に関するお話もありました。ご覧の通り、日本全国で人口が減少している中、天草だけが増えることは難しい状況です。例に出した合志や菊陽付近の自治体は増え続けていますが、基本的にはどこも減少しています。

私たちは人口減少に対する対応策を考え、減少に適応していくことが総合計画の中で必要です。人口ビジョンから見えてくる部分を、うまく総合計画に繋げていくことが重要です。田中先生が指摘された価値を上げることは、所得の増加にもつながります。委員よりお話がありました外国人労働力の活用についても考慮が必要です。

現在、役所の定年は 61 歳ですが、私が定年を迎える時には 65 歳になります。健康で働き続けることが大切です。委員からの女性の医療福祉分野についての指摘もありました。私も年末に入院した際、医療の現場では多くの女性が活躍していることを実感しました。こうした方々が活躍できる場を作ることが、人口減少に対する適応策だと考えます。

次の総合計画に向けて、皆さんのご意見を参考にし、計画を作成し次につなげていきたいと思います。貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。感想としてお話しさせていただきました。

(会長)

まとめていただいたので、その勢いで総合計画に進みましょう。ただ、少し緩やかに話していますので、総合計画において論点になりそうなことを意識的に記録し、人口ビジョンとしてもそれを意識しながらまとめていくと良いと思います。すべてをデータ化するのは難しいかもしれませんが、いくつかのポイントを用意していただくと良いでしょう。

人口ビジョンについて、もう少し必要な観点をお話しします。人口の現状分析というところ、数の議論が中心になりがちです。しかし、例えば人口ピラミッドの形状について考えると、日本全体が逆三角形になり、子供が減って上の世代が多くなるという状況です。天草市の人口ピラミッドがどのような形になりそうか、社人研の推計に基づく予測を示していただくと、その意味がわかりやすくなるでしょう。

釣り鐘型や寸胴型といった形を考えると、上が細くなるのはやむを得ないとして、どのようにまっすぐにするかが論点です。33 ページのケース 4 で示されているように、15 歳から 24 歳の移動率を改善することが課題です。この世代が外に出て戻ってこないことが課題になるので、総合戦略としてそこに焦点を当てることが重要です。

人口ピラミッドの見方を通じて、短期的には人を集めるだけでなく、教育や地域内の価値を理解することが重要です。親御さんたちの意識も含めて考えると良いでしょう。人口ピラミッド的な見方をして、どのように考えるべきかを分析していただくと、議論が深まりやすくなると思います。

現状分析と推計を行うと、この資料にはまとめが必要です。若い世代の定着や流入が課題であり、現状分析と将来推計の結果として注目すべき観点をまとめていただきたいです。考察の部分では、まずまとめを作成し、明示的に示していただくと良いと思います。それに対して必要なことが前のページにあるかどうかを確認し、メリハリをつけていただきたいと思います。このようなまとめが必要だと感じました。

さっきもう 1 点だけ話したのですが、33 ページのケース 4 のところは、15 歳から 24 歳の移動についての話になっています。移動率だけを見ると、その世代の人を増やそうという議論になりがちで、天草市の現状では改善しにくいのではないかと思います。出ることは仕方ないので、逆にこちらに人が来るような工夫をする必要があります。例えば大学を作ることも考えられますが、それだけだと目的がわかりにくくなり、手段が目的になってしまうことがあります。

単に移動の改善だけでなく、もう少しその後の世代、25 歳から 34 歳の次の 10 年も考えるべきです。U ターンをどう考えるかや、天草の魅力をもっと考えることが重要です。新卒が天草に来るかどうかだけでなく、第 2 新卒のような比較的早い時期に転職することでも考慮すべきです。子供が生まれたり、結婚を考えるタイミングで生活環境を考えること

もあります。キャリア形成を考える際に、地域に住みながら安心した環境で働く選択肢もあります。

30代中盤を過ぎるとなかなか人は動かなくなります。10代の頃からどのタイミングで動くのかを見て、そのタイミングごとにどのようなことを考えるべきかを分析することが重要です。天草市として人口ピラミッドをまっすぐにするためには、移動率の分析を行う必要があります。若い方々の移動やリターンについて考えることが大きなテーマです。

若い方の移動に関して、子育てをどう見るかなどを意識してデータを用意すると、来年の計画が見やすくなると思います。九州の方としては合計特殊出生率が高い傾向がありますが、もっと高くできるのではないかと考えています。健康で長生きすることも地域の活力として重要です。農業では50代以降に就農することが普通になってきており、元気な高齢者が活躍することが重要です。

現状分析と将来推計の結果として、何に注目すべきかを考える必要があります。若い方の移動や出生率、健康・長生きの話もよく見てみるとヒントが埋まっていると思います。人口が変わると地域の低密度化が進むので、土地利用や公共施設のあり方についても考える必要があります。まとめとして、分析と推計の結果を踏まえて考えるべきデータを設定し、次の議論がしやすくなるようにしておくと思います。

以上、私の考えをお伝えしました。お願いいたします。

(副会長)

今のご説明でほぼ9割理解できました。ただ、地域づくりやまちづくりの観点から考えると、もともと10の市町が合併していることが大きな要素だと思います。この10年間で、コロナや豪雨災害、熊本地震などがあり、変化のスピードがどんどん速くなっているように感じます。行政としてエリアをどうマネジメントしていくかが大幅に変わっていると思います。

特に苦しい地域については、せっかく合併したのに損をしている部分がないか心配です。役所が上を見るのは大切ですが、同時に誰一人取り残さないということも役所だからこそのことだと思います。セーフティネットについても考えていただけると良いのではないのでしょうか。エリア的な問題があると思いますが、特に離れたところは本当にしんどいかもしれないので、そういったチェックをしていただけるとありがたいです。以上です。

(会長)

地域ごとの違いを示すために、データを出しています。これにより見えてきたことがあれば、それを次の総計のポイントとして考えるべきです。データを作成する段階で気づいたことがあれば、論点として出していただくのが重要です。特定の地域だけが困っているというのは言いにくいかもしれませんが、全体として考えると、均衡の取れた進め方が必要です。気づいたことがあれば、日常の中で記録し、場面で出していただくと良いと思います。

地方創生は、日本がキーワードを持ったからだけでなく、多様な希望に応えることが大きな観点です。高校生に聞くと、みんな帰ってきたいという希望があります。結婚や子育てに関しても希望があるが、現実には実現できないことが多いです。その希望に応えるこ

とが大きなテーマです。

天草市は希望を持てる地域だと思います。地域の方々が子育てなどに取り組む姿が見えると、もっと希望を持てるようになると思います。希望があるなら、それをデータに見せることが必要です。高校生のアンケートを安定的に取っていないのが課題ですが、帰りたいと思っているかどうかを把握し、その希望を維持し、高めることが重要です。

希望に応えると、人口ピラミッドの維持がしやすくなります。他と格差がないようにすることも住み続けるための希望です。そういった希望に応えるデータを作ることが重要です。今日の議論を踏まえ、希望をまとめてデータとして用意することが必要です。

人口ビジョンの議論は、次の総合計画にも繋がると思います。皆さんにはさまざまな観点で考えていただき、相談があればご協力いただけると良いと思います。議題とその他については、他に何かございますか？

（事務局）

色々のご意見ありがとうございました。人口ビジョンに関して、もしお気づきの点や今日言えなかったことがありましたら、メールで事務局の方に送っていただければありがたいです。ありがとうございます。

総合戦略の改定作業の状況について、最後にご説明します。資料は2の4になります。総合戦略については1年間延長するというお話をしましたが、現在、本市においてDX推進方針を作成しています。デジタルの活用に関する方針を掲げており、1年間延長分の総合戦略の中に落とし込もうと考えています。

内容については現状、担当課と検討中で中身は入れていませんが、変更や追記の部分は赤字で示していますので、ご確認いただければと思います。大幅な変更は考えておらず、デジタルの活用に関する記載を少し充実させる予定ですので、ご理解をお願いいたします。

今後のスケジュールですが、庁内で意見照会を行っています。今回の審議会でも様々なご意見をいただきました。人口ビジョンと総合戦略ともに修正やデータの追加を行い、審議は天草市デジタル田園都市国家構想推進本部で行います。最終的に3月までに改定作業を完了したいと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。ありがとうございます。

（会長）

総合戦略の今後の展開と内容についての話が抜けていましたが、今後の展開を進めていただくということで確認させていただいてよろしいでしょうか。総合戦略は改定期だからということもありますが、年限については特に縛りがあるわけではありませんので、1年延ばしながら総合計画と連動させていこうということで進めていくのですね。適宜必要な修正を加えるということで進めていただくということかと思います。

また、特に議決が必要な計画ではありませんので、必要であれば適宜修正を加えることができ、審議会でも議論できます。まずは延長する方向で進めていきたいと思います。指標などは総合計画を議論する上でも必要ですので、必要なものをどんどん補っていただければと思います。そういう展開でよろしいでしょうか。委員の皆様、ご理解いただければと思います。

では、総合計画、総合戦略と人口ビジョンに関することは以上といたします。最後に、その他のことですが、事務局から何かございますか。よろしいですか。今後の予定はどうでしょうか。今日の会議が終わったら、今年度はありませんね。以上でしょうか。何かありましたか。委員の任期が終了だったのと、終了でありありがとうございましたということかもしれませんし、まだご相談することがあれば、適宜修正してもいいでしょう。大丈夫ですか。はい。ということで、ご協力いただきありがとうございました。

審議会としては、今日は幅広い議論をしようという意図がありました。それは総合計画策定に向けて、皆さんに気になることや確認することを行っていただきたかったからです。人口のことから考えつつも、所得や地域の価値、文化など、考えなければならないことも一緒に考えたからこそ、他の人に伝わりにくいことかもしれませんが、この中で共有できていると思います。ぜひともそのことを活かしながら次の展開に進めればと思っています。

では、今年度予定していた会議は以上となります。また改めて事務局からご案内をいただいた中で、皆さんご協力いただければと思います。以上をもって終了いたします。